

会議等結果報告書		報告者	平成22年6月17日 主査 西山慎太郎
決 裁 欄	理事兼事務局長 次長兼 総務部長		
件名	平成22年度 第4回芸大施設整備委員会		
日時	平成22年6月16日(水) 午後8時30分から午後9時まで		
場所	芸術大学 新講義棟 大講義室		
参加者	芸術大学 長谷美術学部長、戸山音楽学部長 始め12名 管理課 竹内事務局長、大久保課長、高瀬主任主査、桜井主任 法人本部事務局 山田総務部長、田口課長、西山主査		
内 容			
<p>○ 要点 <i>※ 既付資料あり</i></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 長谷委員長より、以下のとおり、現状等の報告があった。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 県と法人・大学等とによるマスタープランの検討組織の内容を報告する予定であったが、まだ県の方と調整が行われている。</li> <li>・ 検討会議についての基本的な考え方は変わっていないと聞いている(県、法人、大学の3者に現キャンパスの設計関係者、建築学会、ドコモ、学生の代表、各学部の同窓会等を交えて意見を集約する組織とする。)</li> <li>・ 県はオブザーバーとしての参加を希望しているようなので、一緒に検討してもらわないといけないので、正式メンバーとして参加してもらえるように要望している。</li> <li>・ 他大学視察(東京芸大、東京音大、洗足音大の3箇所)については、7月12日(月)となった。詳細スケジュールは田口総務課長が調整中。旅費は管理事務費から支給される。</li> </ul> </li> </ul> <p>※ 次回については、検討会議の組織構成等が決定した後で開催することとし、具体的な日時は決められなかった。</p> <p>※ 詳細は、以下の「会議内容」のとおり。</p> <p>○ 会議内容 (スケジュールについて) 【竹内事務局長】 スケジュールが当初の予定からズレているが、基本的にはこのまま進めていただきたいと考えている。 検討会議についても、6月の終わりから7月の初めまでには第1回目を開催する予定で準備を進めている。</p> <p>(アンケートについて)</p>			

【長谷委員長】

これまでのアンケートの集計結果をもらったが、内容的には「寒い。」とか「狭い。」という程度の回答が見られる程度。

【山先生】

学生たちが施設について具体的にどのように考えているのかを聞く必要がある。今までもいろいろな機会にアンケートを実施しているようだが、施設に関することに絞った内容のアンケートをきちんととっておいたほうが良い。

【長谷委員長】

実際に施設を使っている当事者でないと分からないこともある。例えば、デザイン棟については、デザイン専攻の学生でないと分からない。アンケートは、改修・改築の対象となっていない陶磁棟も含めて、専攻ごとにそれぞれの施設について聞くことが必要。併せて、講義棟のような全体にかかわることも聞いていく。

【細川先生】

電気等の施設設備を管理する方々にも意見を伺った方が良い。他にも、図書館の事務室も機能的な制約があったりして、今の時期本当に暑い。司書の方の意見も聞くべき。

【山先生】

この大学しか知らない学生にとっては、具体的な内容をこちらから提案するような形で意見を聞くようにしていかないと本当の希望は聞くことはできない。

(県との関係について)

【山先生】

検討会議には県も正式に入ってもらった上でマスタープランを作っていかなければならない。そうすれば、結果について県も逃げられなくなるのではないか。

【竹内事務局長】

県がどのように考えるのかは今後の展開による。ただし、今回は大学から出されたものに対して県も真摯に受け止めていくという考え方のようである。そのためにも、大学と法人でもしっかり意思決定をしたものを県に出していくという考え方をとりたい。

(マスタープランの検討方法について)

【長谷委員長】

先生方は要望をまとめることをし、要望を具体的なプランをまとめた資料を作るのは設計事務所というやり方で検討していくことになる。

【山先生】

マスタープランの検討に当たっては、新音楽学部棟を含めて検討していかないといけないのではないか。

【長谷学部長】

奥村先生も新音楽学部棟の建設が決まっているから、それをベースに考えていかなければいけないと言ってくれている。

近藤氏はいろいろと言っているが、具体的な代案を出してきたことはない。現レッスン室の階高の問題を解消するには改修では難しい。

【竹内事務局長】

外からいろいろと言われているが、大学の中から見直すとかいう話が出るのではないよう、一致団結していかないといけない。せっかくここまで積み上げてきて、来年度は工事費を県に予算要求する中で、大学が揺らぐことがないようにして欲しい。新音楽学部棟に関して美術の先生が何か言われるかもしれないが、音楽の先生

は緊急性・必要性をしっかりとと言わないといけない。

【先生】

プレハブによる仮設方式は費用がかかるということで県では認めてくれなかった。また、コンサートホールを大学の玄関口にあったほうが良いというような将来的なことを考えて計画の場所に建設をすることになった。

図面だけを見ている外部の人でも、現状や検討の経緯を話していくと「そういうことならしょうがない。」と理解を示してくれる。外部の人に対しては、何らかの形で分かりやすく説明する必要がある。

(施設整備委員会と検討会議の関係について)

【山本先生】

検討委員会と施設整備委員会の関係はどのようなものになるのか。また、座長は誰になるのか。

【長谷学部長】

別個に開かれるものである。座長は分からない(自分になるのかもしれないが)。本当は県に座長をしてもらいたい。

【山本先生】

施設整備委員会は承認機関ということか。

【竹内事務局長】

施設整備委員会の承認の元に検討会議を作る。具体的な検討は検討会議で行い、施設整備委員会に報告された後、施設整備委員会で検討してもらい、その後法人として意思決定をすることになる。

【長谷学部長】

施設整備委員会では検討会議からの提案を受け、それを承認したり、必要に応じて部分的に再度検討を依頼するとか、何度でもやり取りをすることになる。最終的な決定権は施設整備委員会にある。

(女子寮について)

【長谷学部長】

(施設整備委員会前に開催された教員対象の説明会で旧女子寮の利用法の再検討と取り壊し時期延期の要望があったことに対して)

無理かもしれないが、県に聞くだけ聞いてみる。

なお、要望のあった油画専攻の先生12名に個人的に聞いてみたが、旧女子寮を美術館にして欲しいと言っているのは1名だけ。

全体の計画の中で面積が1.3倍までという枠組みがあり、新音楽学部棟もその考え方に則って検討を進めてきた。仮に旧女子寮が美術館に転用されるとなると、その分の面積が美術学部全体の面積に含まれることとなり、その面積分が今後の検討からは除かれることになる。あれも欲しいこれも欲しいということとはできない。気持ちには分かるが残すことによって、その後何が起こるのかを理解していない。

旧女子寮を美術館に転用することについても、きちんとした美術館があった上でのプラスアルファとして活用するのであれば面白いと思うが、そこがメインということにするのは難しいと思う。

以上